

いばらき しごと帖

The Living Crafts in Ibaraki



暮らしに寄り添う、茨城県伝統工芸品

千三百年の歴史を持つ 古都・石岡の地で交差する 職人の矜持と未来への視点

産業は、時代の要請を受けて繁栄し、時代とともに移り変わる。
しかし、同業者がほぼすべていなくなっても、現代の暮らしの中で求められる
新たな形や方法を自ら見出し、伝統技術を次代へと伝えていく人たちがいる。
筑波山が見守る石岡の地でしなやかに奮闘するつくり手たちを紹介する。

茨 城県のほぼ中央に位置する石岡市は、もともと桐の産地であったほか、
上質な東北の桐材を輸送しやすい地理的条件が整っていたことなどから、
大正から昭和の初めにかけて多くの桐加工業関連会社が操業し、桐製品の生産
地として発展した。しかし、需要減少のため徐々に衰退し、当時60社あった関
連会社のうち現在も残るのは、「高安桐工芸」一社となった。

「うちの最大の特徴は、製材から製品の仕上げまですべての工程を、自分た
ちの手で行うことです」と三代目の高安尚訓^{ひさのり}さん。毎年6月に、父で二代目の
英直さんとともに秋田に向かい、上質な桐の丸太を買付けしている。購入した
丸太は、自社敷地内に3年ほど寝かせ、乾燥させてから自らの手で製材する。
「祖父の時代には桐箆管を製作していましたが、需要が減っていくことに父が
危機感を抱き、丸太の加工から自分たちで行えるよう設備を整えたんです」。
そのため、製材装置はどれもかなりの年代物だ。コンピュータ制御によりほぼ

The Living Crafts in Ibaraki



◎茨城県伝統工芸品について

茨城県の風土と県民のくらしの中で育まれ受け継が
れてきた工芸品製造者等の製造意欲の高揚を図ると
ともに、工芸品に対する県民等の認識を広めること
を目的に、優れた伝統工芸品を知事が指定していま
す。（令和3年2月末現在：41品目）

◎茨城県伝統工芸士について

茨城県指定伝統工芸品製造者等の社会的な声価を高
めるとともに、従業意欲と技術の向上及び伝統工芸
品の次代への継承に寄与することを目的に、製造技
術・技法の研鑽を積まれ、高度の技術を保持する製
造者等を知事が認定しています。（令和3年2月末現
在：81名）

a) 秋田で買い付けた桐の丸太は、自社の敷地内で3年
間寝かせて乾燥させ、製材
する。b) 二代目の英直さん
の指示を受けながら状態を
見定め、木を引く三代目
の尚訓（ひさのり）さん。



高安尚訓さん 石岡の桐箱

無人で行える最新式のマシンとは異なり、人の目で状態を確認し、内部の様子を予測しながら、回転する歯に向かって丸太を押し当て木取りをしていく。

「手を歯のそばに置くことが多く、危険を伴う作業ですが、機械の設計がシンプルなので、故障しても自分たちで修理できるという利点があります。木の目の取り方も自由に変えられるので、無駄も減らせますし」と尚訓さん。切り出した木は、屋外で3か月間干してアクを抜き、内部に汚れや虫食いが無い綺麗な部分を鋸で引いて四角く整える。それらを板目が合うように複数枚圧着させて、ようやく桐の板材が完成する。

この板材を、英直さん、尚訓さんが初代から伝わる高い技術力で、中に納めるものの寸法にぴたりと合う桐箱へと仕上げる。得意先は、隣接する笠間市の陶芸作家たちだ。評判が伝わり県外在住の作家からの注文も入る。

伝統工法でつくられるこの桐箱と並び、もうひとつ、高安桐工芸の顔となる商品がある。「工芸品から日用品へ」の惹句で販売される桐製の雑貨類だ。非常に軽く、滑らかで温かみがあり、優れた調湿作用を持つという桐の特性を生かした、ストッカーやまな板、トレー、コースター、積み木など。10年前から生産を始め、今では桐箱と同等に高安桐工芸を支える商品にまで成長した。

これら雑貨の企画製作を主導してきたのが、尚訓さんの妻の由佳理さんだ。出身地の広島を出て進学した北海道の大学で尚訓さんと出会い、石岡に嫁いだ由佳理さん。最初の10年は子育てと家事に専念していたが、桐製品の需要の減少に伴う家計の危機に、一大決心をして新たな商品開発に臨んだ。「経験は



c) 桐は柔らかいため、中に傷や虫食いがあることが多い。きれいな部分を切り出し、目を合わせて複数枚圧着したものが、桐材となる。d) 「昇降盤」を使い、必要な寸法に合わせて、材料を切り出す。e) 桐箱の成型では、寸法がくわらないようにゴムで巻かれ、のりが乾くのを待つ。f) 桐雑貨の直営店「LESS is MORE」(「少ないほうがより豊かである」の意)の前で。



しきたりからはみ出してこそ、
伝わる魅力もある

高安桐工芸 | 石岡市村上286-1 | TEL : 0299-23-2601

筑 波山の麓に位置する八郷地区は、「日本の里100選」にも選ばれた美しい里山の風景で知られる。なだらかな稜線を望む八郷の丘の上に建つのが、150年以上に渡り線香づくりを続けるニクン紫山堂だ。もともとは漢字で「日薫紫山堂」と表現されていた社名には、「日々薫るものを紫峰（筑波山）の麓でつくる」という意味が込められている。

製造の肝となる工程を担うのは、五代目となる藤田操さん。家族を中心とした従業員がそれ以外の各作業を担当する。つくられる線香は10種類ほど。現代住宅の気密性などを考慮した煙の少ない「香料線香（匂い線香）」も各種揃うが、中心となるのは、創業以来の伝統的な製法でつくられる「杉線香」だ。

緑色をした昔ながらの姿は、一見なんの変哲もない線香のようだが、国産の杉を主原料としている希少なものだという。あくまで杉にこだわる理由を操さんは、「杉は樹齢千年を超える長寿木であり、古から日本人とともに存在してきた神聖な木であるから」と説明する。

実際の杉線香づくりは、国産の杉の葉の粉末に、繋ぎとしてのタブの木の粉、煙を少なくするための炭、そして、特注した緑の染料を調合することから始まる（染料を加えない線香も製造する）。合わせた材料を混練機に投じ、水を

線香

藤田操さん

g) 桐箱をアレンジしたストッカー。木目を生かし、取っ手をつけ、ドイツ製の安全な塗料で色のバリエーションを出し、サイズも数種類揃えた。伝統工芸では新しい手法が、新たな桐の魅力を引き出している。
h) 雑貨を販売する直営店「LESS is MORE」の店内。
i) 絶妙にアールをつけた形が人気の筆箱やカトラリーケース。



皆無でしたが、現状を変えるためになんとかしないとイケなかったんです。幸い桐は好きな素材でしたから、自分が心から欲しいと思うものを思いきってつくろうと思いました」と由佳理さん。桐工芸の伝統に縛られずに、「曲面」を取り入れた素朴で愛らしい佇まいの桐の雑貨を完成させるが、当初、二代目からは理解が得られなかったという。「家族内でも四面楚歌状態でした（笑）。ただ、雑貨を目にした方が喜ぶ姿を見ると、すぐに態度を変えてくれましたね。義父も夫も何より人が好きで、皆さんに喜んでいただくことが一番なんです」。

高安桐工芸の雑貨は、口コミで評判を呼び、都内の料理道具専門店や大手書店が企画したポップアップストアでメイン商品として販売されるまでになった。2021年3月、自宅の一角に設けた直営店「LESS is MORE」もいよいよオープンする。尚訓さんは、そんな妻の貢献に対し、「父と私が植えた苗を育てて、本当に思いもかけない花を咲かせてくれた」と頬を緩める。

石岡に唯一残る桐工芸職人としての英直さん、尚訓さんの矜持と高い技術に、アウトサイダーであるからこそ由佳理さんのしなやかな発想が加わり、頼もしく咲いた「桐の日用品」という素朴で可憐な花。他の桐製品にはない身近さ、愛らしさと、抜群の使い勝手で、これからも全国の人々を魅了していく。



j) ニクン紫山堂の代名詞ともいえる杉線香は、一把単位でも販売される。一把に紙を巻くのも熟練の手業だ。k) 八郷の美しい里山の中にある製造工場。l) 練られた材料が機械に入れられ、小さな穴を通ることで線香の形に押し出される。



時代の潮流に応えながらも、 線香を焚き添える本来の意味を 伝え続けていきたい。

加えて練り上げていくが、分量が同じでも気温や湿度によって大きく状態が変わる。加減をしながら、最適な柔らかさに練り上げる作業は、今のところ五代目にしかできない特別なものだ。

練り上がった材料は、油圧式の押し出し機に投入され、小さな穴を通ることで素麺のように細く押し出され、板の上に並ぶ。不要な部分を切り落とされ長さが揃った線香は、板に乗ったまま何段にも重ねられて乾燥室へ。約3日間乾燥機にかけられ、乾いた後、規定の重量ごとに結束され、ようやく製品となる。

包装の際には、操さん自らが書きおろした仏法についてのしおりが封入される。「なぜ線香が必要なのか、その意味を伝えたい想いからつくり始めました。最新のもので10冊目になりますね。私なりに書物を読んだり寺の講座に通ったりして得た仏法の知識を、少しでも皆さんに知っていただけたらという想いから続けています。年に何通か、読んだ感想を手紙で送ってくださる方もいて、受け取ったときは嬉しいですね」と操さん。そういった想いを伝える独自のしおりの作成が、他社との差別化にも必ずつながると信じる。

「父が書くと長くなるので、家族みんなで添削して、イラストを添えたりして読みやすくしています」と話すのは、操さんの3人いる娘の末っ子、由香理さんだ。彼女が、操さんの跡を継ぐ、ニクン紫山堂の6代目となる。



m) 調合した材料を混練機に入れ、練る作業をする五代目の藤田操さん。n) 同じ分量の材料を混ぜても、練りの状態は、気温や湿度によって変化する。最適な状態を確認するのは、五代目が担う重要な役目。

o) 原料は、国産杉にこだわるp) 板の上に細く押し出された線香の曲がりを整える。繊細な作業だ。q) 香料線香も多数揃える。香りの調合も五代目自らが行う。



茨城県伝統工芸品一覧



由香理さんは、県内の大学で学んだあと、東京に出て飲食サービス業に就き、東南アジアでの新店舗立ち上げにも参加。その経験の後であらためて家業を見つめたとき、「150年以上続く線香づくりを絶やしてはいけないなと思いました」。自らの意志で帰省し修業を積む。

「父とはよく喧嘩します。お互い頑固なので」と笑う由香理さん。将来的には、日用品としての新しい線香や、他の工芸品とのコラボレーションを実現したいという夢も描く。そんな跡継ぎに対し、五代目として望むことを操さんに尋ねると、意外な答えが返ってきた。「無理に続けなくても構わないと思っています。自由にやってくれていいんです。伝統とは、時代にに応じて変わっていくもの。その場に適応した線香をつくっていつくればと思います」。

ニクン紫山堂の現在と未来を担う、頑固な五代目と六代目。彼らの視線は、はからずも心の奥深くでびたりと重なり、同じ方角を見据えている。



r)乾燥し終えた線香は、規定の重量で結束される。使われる機械は、素麺用の機械を改良したものだという。
s)ニクン紫山堂の商品に封入される、仏法を伝えるオリジナルのしおり。線香を購入した方から感想が手紙で届くこともある。t)五代目であり父である操さんと、六代目を継ぐ三女の由香理さん。頑固者同士と本人たちは言うが、笑顔に互いを想うやさしさがあふれる。

株式会社ニクン紫山堂 | 茨城県石岡市小幡1632-8 | TEL : 0299-42-3702



01 笠間焼 [笠間市]

江戸時代後期から続く焼きものの産地。伝統を受け継ぎながらも、多くの作家がそれぞれの個性を伸ばし、創造性豊かな作品を生み出している。

Kasama-yaki (Kasama)

A style of Japanese pottery made in Kasama with a history of over 200 years. Unique pottery pieces are created by many artists.



02 つくばね焼 [つくば市]

約50年前に萩より陶工を招いて登窯を築く。筑波山麓の陶土を用い、釉薬には地元の草木灰などを調合。使われてこそ器が理念で、手にした時の軽さと馴染みやすさが特徴。

Tsukubane-yaki (Tsukuba)

Pottery made using clay collected from the foot of Mt. Tsukuba. The potters of Tsukubane-yaki create their pieces with practicality in mind. Hoping that their products will be used every day.



03 五浦天心焼 [北茨城市]

北茨城市にゆかりのある美術運動家・岡倉天心にちなんで名付けられた陶器。胡麻を施した様なさっくりとした風合いの、地元産「北茨城蛙目粘土」を用い郷土の自然を表現している。

Izuratenshin-yaki (Kita-Ibaraki)

Originating in Kitaibaraki, this ceramic industry utilizes the Gairome clay. One of the characteristics of Gairome clay is its appearance. The clay seems like it was dusted with sesame, perfect for making pottery.



04 粟野春慶塗 [城里町]

約500年以上の歴史をもつ日本最古の春慶塗。大子の透き漆を用いているため、天然の木目の美しさが際立つ。その色合いも年月を経るほどに独特の深みを増していく。

Awano Shunkeinuri (Shirosato)

The oldest Japanese lacquerware that rivals the Hida-Shunkei lacquerware and the Noshiro lacquerware.



05 八溝塗 [大子町]

古くから良質の漆産地として知られる大子。大子漆をふんだんに使い、大子の素朴な雰囲気表現したぬくもりのある漆器。普段使いで、使うほどに艶と味わいが増していく。

Yamizonuri (Daigo)

Daigo is known as the home of high-quality lacquer from long ago. This lacquerware often uses Daigo lacquer to reflect the calm atmosphere of Daigo. The more it is used, the more its shine and charm are shown.



06 結城地方の桐下駄 [筑西市] [常総市]

かつては黒塗りが主流だったが、最近では木地を活かしたものやヒール付きなどの下駄もあり、和装用としてだけでなく、様々なスタイルにも合うデザインが多くなっている。

Kirigeta in Yuki (Chikuse, Joso)

Geta, Japanese footwear, made from paulownia wood. This footwear complements the kimono, but it is also perfect for casualwear.



07 結城桐箆笥 [結城市]

防湿性や通気性に優れ、衣類収納として最適。再塗装や修理を施すことで長く愛用できる。また、近年は小型のものが好まれており、希望サイズに合わせたの製作も可能。

Kiritansu in Yuki (Yuki)

An exceptional product in Yuki, this chest is made from paulownia wood. It is known for its resistance to moisture and how well it breathes, making it perfect for storing clothing.

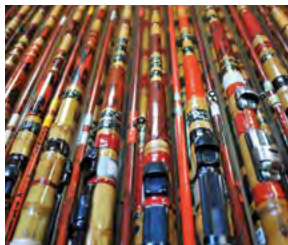


08 水戸やなかの桶 [水戸市]

昔ながらの工法を継承して作られている桶。その技を活かしつつ、お櫃や味噌樽などのほか、お猪口や徳利、弁当箱などオリジナルの商品も多数。

Mito Yanaka-no-Oke (Mito)

A traditional container made from wood, still created using the original method. The oval-shaped containers are unique to this studio, and they are the perfect containers for rice, miso, and pickles.



09 酒沼竿 [水戸市]

地元産の天狗竹に大子産の漆・絹糸を使った手作りの竿。細くしなりが良く、ハゼやボラなど様々な魚に一本で対応できる。また、青貝などが施された見た目の美しさも魅力。

Hinuma Rod (Mito)

Handmade Japanese fishing rod of very great quality, a tool used by local fishermen for catching various kinds of fish.



13 茨城籐工芸 [下妻市] [神栖市]

伝統的技術を身に付けた職人が籐づるの選定からデザイン、編込み、仕上げまでを一貫して行う。ゆりかごや乳母車、バッグなどの小物からチェアやベッドなど幅広い商品を作り上げる。

Rattan Craft (Shimotsuma, Kamisu)

Rattan is a perfect material to create useful daily objects such as furniture, bags, and carts. Geometric patterns are woven by hand.



14 竹矢 [石岡市]

地元・八郷の矢竹を用い、主に、羽と矢尻を付ける前の「筥」を製作。強度と弾力があるので折れにくく、さらに、竹に歪みがなく真っすぐに形が整った美しさも兼ね備える。

Takeya, Bamboo Arrow (Ishioka)

Japanese archery uses bamboo arrows called takeya. They are individually made by hand using charcoal fire, and it is essential that these arrows are perfectly straight.



15 雪村うちわ [常陸太田市]

やや四角い形が特長で、画僧・雪村の画風を模した水墨画が描かれた西ノ内和紙が貼られている。よく干された竹の骨組は軽く、また何十年にも渡り使える丈夫さがある。

Sesson Uchiwa (Hitachiota)

A Japanese fan with Sesson-style pictures drawn by monks of Muromachi. Perfect for use during the summer heat.



10 石岡府中杉細工 [石岡市]

府中杉を使った酒樽や仕込み樽などの技法を継承した杉細工。表面に焦げを付けた「焼杉水車」は、庭園や家庭のインテリアとして人気がある。年始の門松の生産も行う。

Japanese Cedar Handiwork in Fuchu, Ishioka (Ishioka)

Fuchu flourished with sake breweries and cedar wood-container producers. Now they are known for their interior and garden ornaments made from burnt Japanese cedars.



11 石岡の桐箱 [石岡市]

かつての桐のまち石岡で、神社仏閣の宝物箱、陶器や食品など様々な品物の入れ物として作られてきた。職人が原木の見定めから製作、販売を一貫して行う。デザイン性の高い小物も人気。

Paulownia Wood Chest of Ishioka (Ishioka)

Ishioka city was once regarded as the city of paulownia (Princess Tree), famous for making treasure chests for shrines and temples, as well as containers for pottery and food. The craftsman does everything from selecting the lumber, crafting to selling. Other accessories are also trendy for their creative designs.

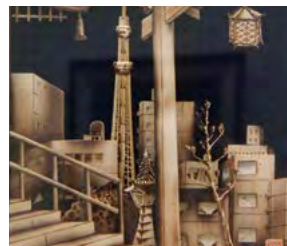


12 いばらき組子 [小美玉市] [神栖市] [ひたちなか市]

組子とは、釘を使わずに手作業で木材を組み上げ、繊細な幾何学文様を作り出す伝統技術。障子や欄間等の和式建具に機能美を付加する。様々な木材の組合せにより、色彩の演出も可能。

Ibaraki Kumiko (Omitama, Kamisu, Hitachinaka)

Kumiko is a traditional technique where wooden pieces are assembled by hand to create delicate geometric patterns without the use of nails. It adds utility and beauty to Japanese architectural fittings such as shoji, and ranma. Different colorings are made possible by the combination of various types of wooden pieces.



16 古河竹工画 [古河市]

竹細工職人の浅野宗一郎氏が創始した竹工画を継承。竹の柔らかさと美しさを活かした技法は、全国でも類を見ない。全てを手作業で行うことで、自然あふれる作品が生まれる。

Koga Bamboo Pictures (Koga)

Pictures drawn with bamboos, these pictures reflect the beauty and softness of the evergreen plants. The wild bamboos create lovely work of art.



17 西ノ内和紙 [常陸大宮市]

奥久慈の清流と良質の楮を用い、伝承技術の手漉きで作る和紙。文具としてだけでなく、壁紙やタペストリーなどのインテリアやオブジェなど、多彩に利用されている。

Nishi-no-Uchi Washi (Hitachiomiya)

A Japanese paper (washi) made from the mulberry bush. Nishi-no-Uchi Washi is durable and thin with a unique texture.



18 かな料紙 [常陸太田市]

金・銀箔を施した箔装飾や版木で模様を刷った唐紙など、きらびやかに装飾された料紙は、平安時代に花開いた仮名文字の文化を現代に美しく再現している。

Kana Ryoushi (Hitachiota)

Japanese paper exclusively for Kana (Japanese syllabic scripts). These papers are decorated with gold and silver, and some are dyed with plants.



19 国寿石大子硯 [大子町]

大子町小久慈で採れる『国寿石』で作る硯。墨をするための石の結晶・鋒鉞が立ち、発墨が良いとされている。また、大子漆や金箔を施した美術品としても好まれている。

Kokujuseki Daigo Suzuri (Daigo)
Inkstones made from unique stones in Daigo. The Kokujuseki Daigo Suzuri is loved by many calligraphers and writers.



20 本場結城紬 [結城市]

奈良時代から伝わる高級絹織物で、古くから着物で愛用されている。現在では、ショールやバッグ、財布など、普段使いの多彩な商品も展開している。

Yuki-Tsumugi (Yuki)
A traditional textile with beautiful textures made since the Nara period in Ibaraki Prefecture.



21 いしげ結城紬 [常総市]

常総市石下を中心に作られる、もう一つの結城紬。昔ながらの手しぼりで緋の模様を作り、この地方独特の足踏織機を使用して丁寧に織り上げられている。

Ishige Yuki-Tsumugi (Joso)
Pure silk fabrics with a long history. The patterns of Kasuri is hand drawn with fingers.



25 桂雛 [城里町]

伝統的な工法の手作り雛人形。平安の色使いを再現しながら、結城紬の着物を製作したり、パールをあしらうなど遊び心も見られ、現代のインテリアに合う雛人形を提供している。

Katsura Hina Dolls (Shirosato)
Hand-made dolls that are decorated with altars to celebrate Girl's Festival in March. The dolls are dressed like court nobles from the Heian period with costumes made sometimes with Yukitsumugi or Freshwater Pearls.



26 万祝・大漁旗 [大洗町・ひたちなか市]

万祝・大漁旗は、ともに大漁の時に使われる。鶴亀などの縁起物が色鮮やかに描かれ、祝いの日に華を添える。また、染色の技術を活かし、店舗のれんなどの製作も請け負う。

Maiwai, Fishermen's Flag (Oarai, Hitachinaka)
Maiwai is festive kimonos to celebrate a successful catch, developed among the fishermen who lived by the sea. The traditional flags initially flown by boats to signify a big catch of fish. Today they are used as a decorative flag for festivals and celebratory events.



27 手描き鯉のぼり [北茨城市]

ダイナミックな筆遣いで描かれた目や鱗が力強く、9mの大きな真鯉が空で泳ぐ姿は圧巻。近年は室内で飾られることも多く、額に入れたインテリア鯉のぼりも人気がある。

Handpainted Koinobori (Kita-Ibaraki)
Meaning "carp streamer" in Japanese, are carp-shaped windsocks traditionally flown in Japan to celebrate Children's day. They are made by drawing carp patterns on paper, cloth or other nonwoven fabric.



22 水海道染色村きぬの染 [常総市]

ろうけつ・友禅・藍染・江戸小紋など、様々な種類の染色技術を持った職人が集まった染色の村で作られる染物。違った表情の染物に出会える楽しみがある。

Silk Dyeing in Mitsuikaido (Joso)
Artists using dye for their crafts has lived in Mitsuikaido for the past 50 years. Each piece is diverse and displays the unique characteristics of each artist.



23 常陸獅子 [石岡市]

常陸国總社宮例大祭(石岡のおまつり)に欠かせない常陸獅子。まゆが太く力強い表情で、角がないのが特長。魔除けとして一般家庭にも根付いている。

Hitachijishi (Ishioka)
The lion mask is used in the September festival in Ishioka. This mask is revered as a talisman, and people in this region come to show their respects.



24 水府提灯 [水戸市]

水戸は、岐阜や福岡県八女と並ぶ提灯の日本三大産地。内側の竹ひごを1本1本輪にして糸で繋ぐ「1本掛」で作られているので、形が崩れにくい丈夫な仕上がりが特徴。

Suifu Chochin (Mito)
Japanese paper lanterns made in Suifu, the original name for Mito. This durable lantern is held together by bamboo sticks and strings.



28 線香 [石岡市]

杉の葉を粉にした自然の風合いが残る線香。江戸時代からの製法を守り、昔と変わらない清楚な香りを放つ。今でも筑波山の湧水を利用した水車を使う所も残っている。

Incense (Ishioka)
Handmade from Japanese cedar needles that are harvested without falling the tree and are then ground to a paste by traditional methods using a water mill powered by the streams from Mt. Tsukuba. The aromatic scent is a pleasure to enjoy.



29 浮世絵手摺木版画 [常総市]

多色刷の浮世絵木版の製作を行う。彫師と摺師の共同作業で、使う色の数により版木や摺りの回数も増えていく。非常に手間がかかるが、その独特の色合いを求めて現代画家からの制作依頼も多い。

Ukiyo-e (Joso)
Ukiyo-e is a genre of Japanese art which flourished during the Edo period. The hand painting process is repeated again and again, using the differently carved woodblocks to over-print each individual colour, which requires highly skilled engravers and printers to work together.



30 真壁石燈籠 [桜川市]

硬質で堅牢な真壁石で作る伝統的な石燈籠のほか、自由に組み合わせが出来る「真壁よせとうろう」も人気。狭い庭や室内でも違和感がなく、インテリアとしても楽しめる。

Makabe Stone Lantern (Sakuragawa)
Traditional stone lanterns crafted in Makabe using local excavated stone. They are primarily placed in temples, shrines and gardens.



31 ベつ甲細工 [桜川市]

貴重なべつ甲の装飾品。特に、イモツギで繫いだ目の細かい市松模様は高い技術を要する。彫刻や螺細、蒔絵などを施した和装品のほか、アクセサリーも手がける。

Tortoise-Shell Artwork (Sakuragawa)

Some traditional Japanese jewellery such as hairpin, comb and brooch are made with tortoiseshell. The beautiful mottled appearance is crafted into artworks by highly-skilled craftsmen in the region.



32 梵鐘 [桜川市]

800年の伝統を誇る、梵鐘の製造元。勅許御鋳物師として日本で唯一、菊の御紋の使用が許されている。全国の寺社に鐘を納めるほか、日用品として、梵鐘型の風鈴も製作している。

Buddhist Bell (Sakuragawa)

Large bells found in Buddhist temples throughout Japan. When the bell is struck externally, a clean, clear echo is produced.



33 米粒人形 [水戸市]

米粒一つひとつに、人物の表情と鮮やかな衣装を描いた常陸太田市発祥の人形。肉眼で細い筆を入れ、水戸黄門行列や十二支、七福神などをモチーフに愛らしい姿を作り出す。

Rice Grain Doll (Mito)

A beautiful miniature art that is handprinted onto a grain of rice that is less than 2mm in length. Usually, the painting resembles the 12 Chinese zodiacs, Mito Koumon or the seven gods on good fortune.



37 あやめ笠 [潮来市]

もともとは潮来の水郷地帯での農作業に欠かせない、日よけ、雨よけのすげ笠。今では、潮来の花・あやめを飾り、幸せを招く民芸品として人気を集めている。

Iris Hat (Itako)

A braided straw hat that was once used by rice farmers for protection from sun and rain, now it a popular craft decorated with iris flower, the symbol of Itako city, as a charm of happiness.



38 繁昌笠 [行方市]

繁昌笠は、江戸時代から続く日よけや雨よけ、災難から身を守る守笠。繁昌という名前がめでたいと、県外からも買いに来る人がいるほどで、縁起ものとして人気が高い。

Hanjogasa (Namegata)

The Hanjogasa is a woven straw hat made from soft rush. It is used as protection from the sun and rain, while it is also a charm to keep its holder away from bad luck. Its name "Hanjo" also means prosperity, making it a popular gift.



39 結城まゆ工芸 [結城市]

結城紬の原料となる繭玉を縫い合わせた独自の工芸品。軽く柔らかな肌ざわりと丈夫さで、帽子やバッグからスキンケア用のパフまで、様々な商品の展開をしている。

Silk Cocoon Craft (Yuki)

These original crafts are made from cocoons that are the same material for Yuki-Tsumugi. The cocoons are cut open and dyed, then sewed together to make hats, bags, powder puffs and other delicate crafts.



34 大穂のほうき [つくば市]

蛤型や串型などの装飾をほどこした、手編みで仕上げる手作りのほうき。サイズも多彩でキッチンや書斎などでも使いやすいため人気があり、若い層の購入も広がっている。

Oho Broom (Tsukuba)

Hand knitted broom made from traditional techniques in the Oho area. Made in many different sizes, the local materials are crafted carefully for durable brushes that would last for as long as 15 years.



35 武道具 [水戸市]

「水戸の剣道具」として全国的に有名。激しい打ち合いにも耐え得る頑丈なつくりと手作業で丁寧に仕上げた上品な飾りが調和した、機能性の高い武道具を生み出している。

Budogu (Mito)

The protective armour worn by those who practice kendo, a Japanese martial art. The Mito budogu is famous in Japan for its durable material and polished craftsmanship.

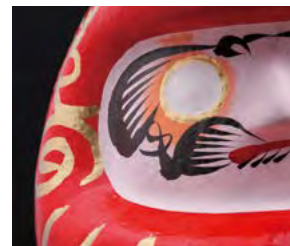


36 カガミクリスタル [龍ヶ崎市]

日本初のクリスタル専門工場。創業者の各務鑑三氏^{（各務鑑三）}が多くの職人を育て、現在も手吹きやハンドカットなどによる工芸品が、熟練した職人技により作られている。

Kagami Crystal (Ryugasaki)

Japan's first established crystal glass factory. The craftsmen are masters of German glass-making skills and techniques, including hand glassblowing and manual cutting. This high-quality glassware is supplied to the Imperial Household Agency for official receptions.



40 那珂湊だるま [ひたちなか市]

江戸末期から作られる手描きの達磨。この地方は漁業に携わる人も多く、安全と大漁を祈願して作られた。額と腹が出ており顔の彫りが深い達磨は、独特の雰囲気がある。

Daruma doll (Hitachinaka)

A Daruma doll is a hollow, round, traditional Papier-mâché doll made with washi paper. The crafting style is passed down from Edo period. Daruma dolls are seen as a symbol of happiness and good luck, making them a popular New Year gift.



41 霞ヶ浦帆引き船模型 [かすみぐら市]

帆の原理を応用して走る帆引き船は、霞ヶ浦漁業の主役として昭和40年代まで活躍した。この模型は実物同様の赤杉の正目を使い、かつての勇壮な姿を再現している。

Model of Hobikisen (Kasumigaura)

The Hobikisen is a type of fishing boat employed on Lake Kasumigaura, famous for its large sail that is twice the size of its body. The scale model is faithfully replicated using the same red-cedar wood to resemble its beautiful figure.

茨城県伝統工芸士一覧

【笠間焼】増渕 浩二／武内 雅之／羽石 修二／安部 秀樹／志賀 出／大津 廣司／長嶺 憲幸／丹野 吉信／大津 晃一／小林 理恵／小林 哲也／磯部 幸克／山崎 雅宏／坪内 孝典／田村 俊介【つくばね焼】梅田 八主守【粟野春慶塗】稲川 武男【結城地方の桐下駄】猪ノ原 昭廣／猪ノ原 武史【結城桐箆筒】堀江 準一／堀江 祐輔／秋山 利広／大塚 正美【石岡府中杉細工】福田 哲也【石岡の桐箱】高安 英直／高安 尚訓【古河竹工画】梅田 文雄【雪村うちわ】坪 總子【西ノ内和紙】菊池 浩／菊池 大輔／菊池 順一【国寿石大子硯】佐藤 弘【本場結城紬】森 ちよ／赤荻 きい子／小島 智恵子／安江 キヨ子／植野 智恵／永田 恵子／関 よね子／中山 光枝／川村 エイ子／赤荻 誠／関 千代子／赤荻 晴実【水海道染色村きぬの染】石山 修【常陸獅子】櫻井 光保／宮本 力／滑川 洋右／飯沼 眞／来栖 保／内田 清春／仲田 紀男／高岡 正人／遅野 井博／山本 俊洋【水府提灯】蔭山 興一【桂雛】小佐畑 孝雄【線香】駒村 道廣／藤田 操【浮世絵手摺木版画】渡邊 和夫【真壁石燈籠】加藤 征一／根本 忠／小原 正／上野 保／杉山 宏／大関 利夫／植竹 常郎／小幡 一夫／加藤 幸彦／稲葉 健一／大塚 貞一郎／小林 忠／瀬谷 一也【べっ甲細工】刈部 博【梵鐘】小田部 庄右衛門【米粒人形】岡崎 ゆき子【カガミクリスタル】松浦 松夫／武井 盛彦／長谷川 秀樹／野口 友和【結城まゆ工芸】市村 マツ

[茨城県伝統工芸品製造者一覧]

陶器

- 【01 笠間焼】笠間焼協同組合—— 笠間市笠間 2481-5 ☎ 0296-73-0058
【02 つくばね焼】陶 梅田 | 梅田 八主守 ————— つくば市沼田 1700-8 ☎ 029-866-2688
- 【03 五浦天心焼】五浦天心焼事務局(あんこうの宿まるみつ旅館内)———— 北茨城市平潟町 235 ☎ 0293-46-0569

木工品

- 【04 粟野春慶塗】稲川 義一 ————— 城里町大字粟 458 ☎ 029-289-3346
【05 八溝塗】大子漆八溝塗 器而庵 — 大子町大子 624 ☎ 0295-72-2775
- 【06 結城地方の桐下駄】猪ノ原 桐材木工所・桐乃華工房 | 猪ノ原 武史 ————— 筑西市関本上 345 ☎ 0296-37-6108
小久保商店 | 小久保 定一 ————— 常総市本石下 79 ☎ 0297-42-2215
- 【07 結城桐箆筒】堀江 桐タンス店 | 堀江 準一 ————— 結城市結城 1645 ☎ 0296-33-2063
有限会社桐タンスのヤマキヤ | 秋山 利夫 ————— 結城市結城 811-5 ☎ 0296-33-3353
大塚 桐たんす店 | 大塚 正美 ————— 結城市結城 13557 ☎ 0296-33-2839

- 【08 水戸やかなかの桶】友部桶製造店 | 友部 昭夫 ————— 水戸市末広町 3-5-14 ☎ 029-231-3527
- 【09 涸沼竿】東明工房 | 川上 東明 ————— 水戸市水府町 1570-28 ☎ 029-225-6835
- 【10 石岡府中杉細工】工芸物産 | 福田 哲也 — 石岡市高浜 825 ☎ 0299-26-3221
- 【11 石岡の桐箱】高安 桐工芸 | 高安 尚訓 ————— 石岡市村上 286-1 ☎ 0299-23-2601
- 【12 いばらき組子】安達建具株式会社 | 安達 克敏 ————— 小美玉市羽鳥 2738-108 ☎ 0299-46-0205
馬場先木工所 | 馬場先 貞之 ————— ひたちなか市殿山町 2-1-6 ☎ 029-263-1258
渡會建具店 | 渡會 利一 ————— 神栖市掘割 1-3-26 ☎ 0299-92-0744

籐工芸

- 【13 茨城籐工芸】オキナヤ 籐工芸 | 山田 和幸 ————— 下妻市小野子町 2-61 ☎ 0296-44-3986
ラタンファニチャー堀江 | 堀江 正壽 ————— 神栖市波崎 6538-8 ☎ 0479-44-4848

竹工品

- 【14 竹矢】義政(有限会社弓屋) | 小池 和義 ————— 石岡市小幡 830-3 ☎ 0299-42-3376
義行 | 助川 弘喜 ——— 石岡市小幡 849 ☎ 0299-42-3659
- 【15 雪村うちわ】枿儀團扇店 | 坪 總子 ————— 常陸太田市端町 2274 ☎ 0294-72-7159
- 【16 古河竹工画】梅田 文雄 ————— 古河市東 2-23-14 ☎ 0280-31-1509
小林 富雄 ——— 古河市上大野 906-1 ☎ 0280-98-0393

和紙・文具

- 【17 西ノ内和紙】五介和紙 | 菊池 浩 ————— 常陸大宮市山方 1323 ☎ 0295-57-6647
紙のさと | 菊池 大輔 ————— 常陸大宮市舟生 90 ☎ 0295-57-2252
- 【18 かな料紙】小室 久 ——— 常陸太田市大菅町 211-2 ☎ 0294-82-2451
- 【19 国寿石大子硯】大子硯工房「岱山」 | 佐藤 弘 ————— 大子町大字袋田 753-1 ☎ 0295-72-1361

織物・染物

- 【20 本場結城紬】本場結城紬卸商協同組合————— 結城市結城 1360-1 ☎ 0296-33-2333
- 【21 いしげ結城紬】茨城県結城郡織物協同組合————— 常総市新石下 3666 ☎ 0297-42-2201
- 【22 水海道染色村きぬの染】石山 修 ——— 常総市坂手町 5538-30 ☎ 0297-27-3025
佐古染色工芸館 | 佐古 章 ————— 常総市坂手町 5538-28 ☎ 0297-27-2053
小林 義一 ——— 常総市坂手町 5538-98 ☎ 0297-27-0164
宮嶋 康哲 ——— 常総市坂手町 5538-6 ☎ 0297-27-2057
奥谷 好文 ——— 常総市坂手町 5538-88 ☎ 0297-27-3611

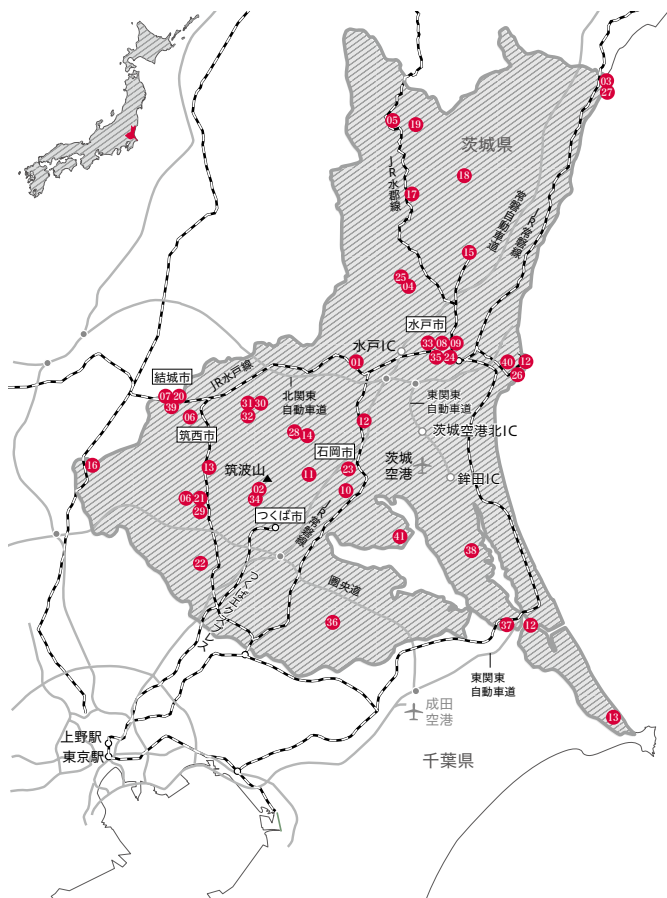
祭礼・用具など

- 【23 常陸獅子】櫻井 光保 ——— 石岡市石岡 2747-5 ☎ 090-3227-7531
宮本 力 かすみがうら市上稲吉 1862-5 ☎ 090-2627-9216
来栖 保 ——— 石岡市若宮 1-2-25 ☎ 0299-23-0895
滑川 洋右 ——— 神栖市知手 3599 ☎ 0299-96-4682
飯沼 眞 ——— かすみがうら市上土田 907 ☎ 0299-59-3307
- 【24 水府提灯】株式会社青野商店—— 水戸市新荘 1-5-50 ☎ 029-221-2491
株式会社蔭山利兵衛商店—— 水戸市本町 3-3-7 ☎ 029-221-3666
株式会社鈴木茂兵衛商店—— 水戸市袴塚 1-7-5 ☎ 029-221-3966

- 【25 桂雛】有限会社桂雛 | 小佐畑 孝雄 ————— 城里町阿波山 1186 ☎ 029-289-3246
- 【26 万祝・大漁旗】中山染工場 | 中山 精一 ————— 大洗町磯浜町 459 ☎ 029-267-3256
大森染工場 | 大森 幸二 ————— ひたちなか市東本町 19-22 ☎ 029-263-5207

諸工芸品

- 【27 手描き鯉のぼり】株式会社三國屋 | 藤田 昌平 ————— 北茨城市大津町北町 3341-1 ☎ 0293-46-1836
- 【28 線香】駒村清明堂 | 駒村 道廣 石岡市小幡 1899 ☎ 0299-42-2819
株式会社ニッコン紫山堂 | 藤田 操 ————— 石岡市小幡 1632-8 ☎ 0299-42-3702
- 【29 浮世絵手摺木版画】渡辺木版 | 渡辺 和夫 ————— 常総市新石下 4001-7 ☎ 0297-42-2337
- 【30 真壁石燈籠】真壁石材協同組合————— 桜川市真壁町真壁 402 ☎ 0296-55-2535
- 【31 べっ甲細工】鼈甲屋かりべ | 刈部 博 ————— 桜川市真壁町田 1035-2 ☎ 0296-54-1140
- 【32 梵鐘】小田部鋳造株式会社 | 小田部 庄右衛門 ————— 桜川市真壁町田 45 ☎ 0296-55-0066
- 【33 米粒人形】岡崎 ゆき子 ——— 水戸市渡里町 3234-10 ☎ 029-226-8462
- 【34 大穂のほうき】大穂帯協同組合(株式会社中野産業) ————— つくば市前野 347-2 ☎ 029-864-0368
- 【35 武道具】水戸東武武道具製作所 | 高山 能昌 ————— 水戸市北見町 4-8 ☎ 029-221-5066
- 【36 カガミクリスタル】カガミクリスタル株式会社————— 龍ヶ崎市向陽台 4-5 ☎ 0297-64-7111
- 【37 あやめ笠】(公社)潮来市シルバー人材センター ————— 潮来市辻 765 ☎ 0299-63-1213
- 【38 繁昌笠】寺内 泰夫 ——— 行方市繁昌 1183-5 ☎ 0291-35-2242
- 【39 結城まゆ工芸】市村まゆ工房 | 市村 マツ ————— 結城市結城 13596 ☎ 0296-32-9957
- 【40 那珂湊だるま】だるまや | 飯田 隆司 ————— ひたちなか市十三奉行 1975 ☎ 029-262-3725
- 【41 霞ヶ浦帆船引き船模型】霞ヶ浦帆船引き船・帆引き網漁法保存会————— かすみがうら市坂 1029-1 ☎ 029-896-0017



※マップ上のナンバーは本文中に掲載しているナンバーに対応しています。

◎お問い合わせ

茨城県産業戦略部産業政策課

〒310-8555 茨城県水戸市笠原町978番地6

TEL.029-301-3584

<https://www.pref.ibaraki.jp/soshiki/shokorodo/sansei/index.html>

令和3年3月発行